

2023年3月期 決算説明資料



三ツ星ベルト株式会社

将来情報についての注意事項



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2022年度 連結業績

(単位：百万円)



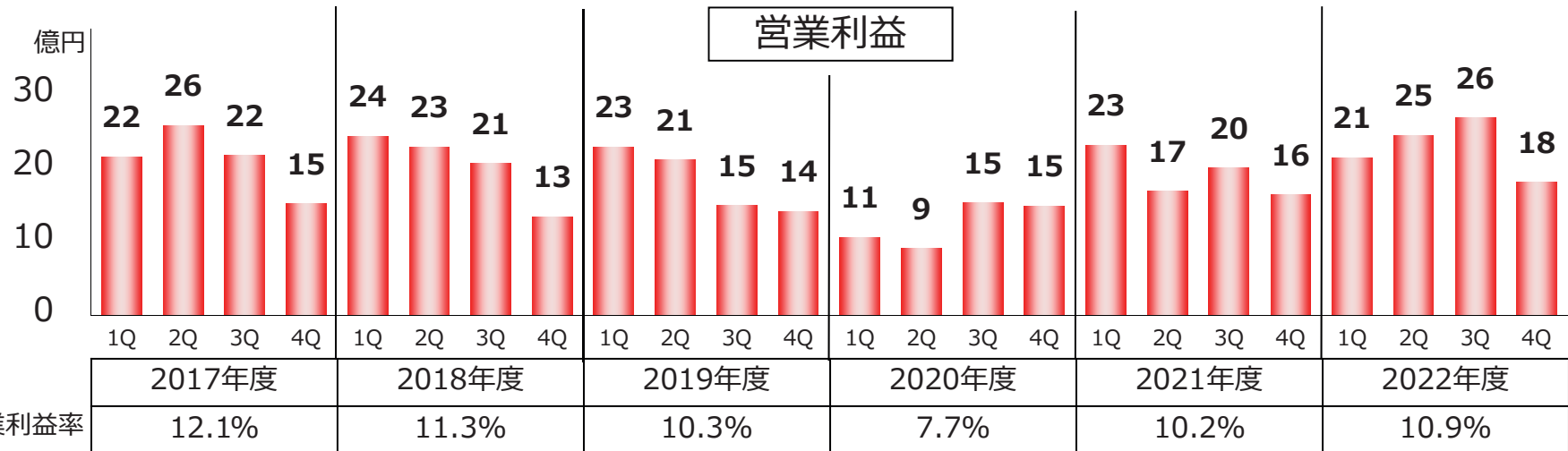
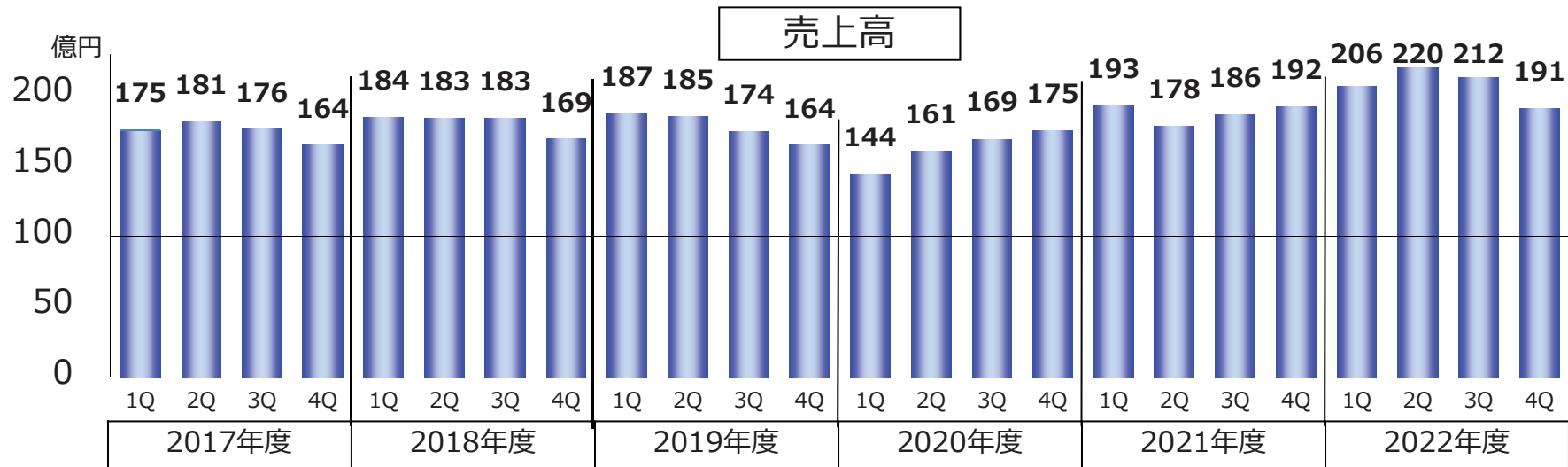
	2021年度			2022年度			通期比較
	上期 比率	下期 比率	通期 比率	上期 比率	下期 比率	通期 比率	差異 増減率
売上高	37,068	37,802	74,870	42,568	40,343	82,911	+8,041 +10.7%
営業利益	3,998 10.8%	3,642 9.6%	7,640 10.2%	4,597 10.8%	4,433 11.0%	9,030 10.9%	+1,390 +18.2%
経常利益	4,439 12.0%	4,113 10.9%	8,552 11.4%	5,731 13.5%	4,740 11.7%	10,471 12.6%	+1,919 +22.4%
親会社株主に帰属 する当期(四半期) 純利益	2,917 7.9%	3,463 9.2%	6,380 8.5%	3,919 9.2%	3,152 7.8%	7,071 8.5%	+691 +10.8%

増収・増益

- ・ 大幅な円安の影響もあり、増収・増益
- ・ 過去最高の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益

四半期業績推移

(単位：億円)



コロナ禍以前を上回る水準へ

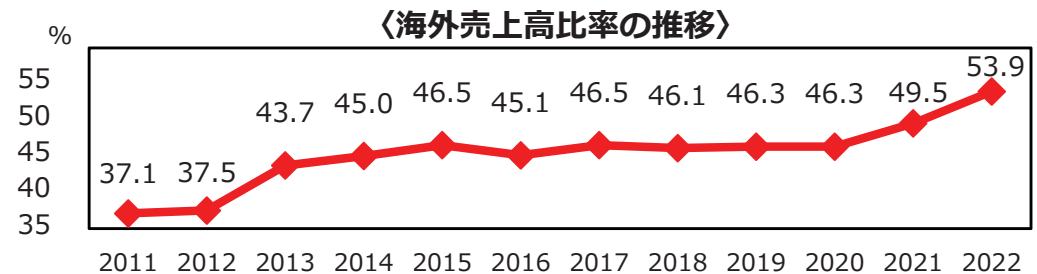
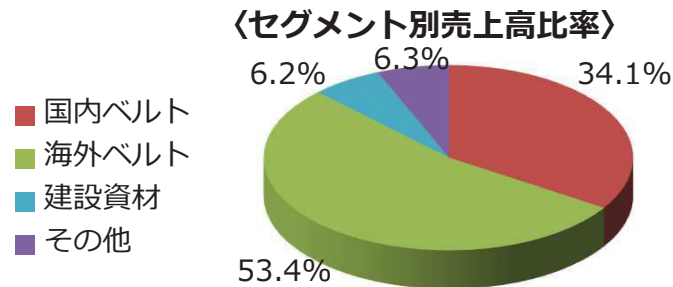
- ・ 2020年度の後半から徐々に業績が回復
- ・ 四半期ごとでも、コロナ禍以前を上回る水準で推移

セグメント別売上高

(単位：百万円)



		2021年度			2022年度			通期比較
		上期 比率	下期 比率	通期 比率	上期 比率	下期 比率	通期 比率	差異 増減率
セグメント別	国内ベルト	13,918 37.5%	13,856 36.7%	27,774 37.1%	14,288 33.6%	14,012 34.7%	28,300 34.1%	+526 +1.9%
	海外ベルト	17,931 48.4%	18,557 49.1%	36,488 48.7%	23,387 54.9%	20,859 51.7%	44,246 53.4%	+7,758 +21.3%
	建設資材	2,683 7.2%	2,680 7.1%	5,363 7.2%	2,140 5.0%	3,009 7.5%	5,149 6.2%	△214 △4.0%
	その他	2,534 6.8%	2,708 7.2%	5,242 7.0%	2,752 6.5%	2,463 6.1%	5,215 6.3%	△27 △0.5%
	計	37,068 100%	37,802 100%	74,870 100%	42,568 100%	40,343 100%	82,911 100%	+8,041 +10.7%
海外売上高		18,179 49.0%	18,886 50.0%	37,065 49.5%	23,612 55.5%	21,058 52.2%	44,670 53.9%	+7,605 +20.5%



為替の影響もあり、海外が大幅に増加

- ・ 主力のベルト事業は海外において主要顧客の生産活動が回復
- ・ 建設資材…建築部門 改修工事の需要回復
土木部門 工事規模が縮小

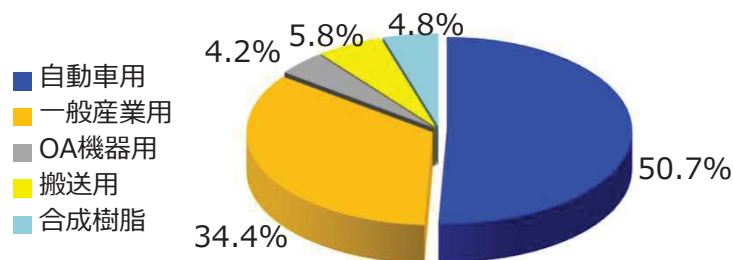
ベルト売上高の内訳

(単位：百万円)



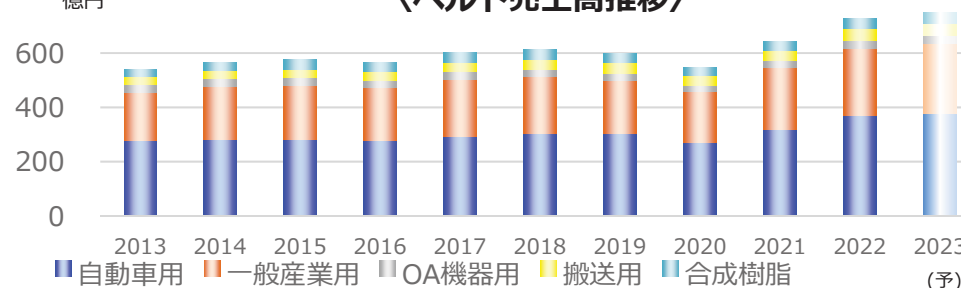
	2021年度			2022年度			通期比較
	上期 比率	下期 比率	通期 比率	上期 比率	下期 比率	通期 比率	差異 増減率
自動車用	15,569 48.9%	16,348 50.4%	31,917 49.7%	18,797 49.9%	17,993 51.6%	36,790 50.7%	+4,873 +15.3%
一般産業用	11,634 36.5%	11,171 34.5%	22,805 35.5%	13,399 35.6%	11,575 33.2%	24,974 34.4%	+2,169 +9.5%
OA機器用	1,223 3.8%	1,368 4.2%	2,591 4.0%	1,616 4.3%	1,454 4.2%	3,070 4.2%	+479 +18.5%
搬送用	1,949 6.1%	1,933 6.0%	3,882 6.0%	2,130 5.7%	2,094 6.0%	4,224 5.8%	+342 +8.8%
合成樹脂素材	1,475 4.6%	1,593 4.9%	3,068 4.8%	1,733 4.6%	1,756 5.0%	3,489 4.8%	+421 +13.7%
ベルト合計	31,850 100%	32,413 100%	64,263 100%	37,675 100%	34,872 100%	72,547 100%	+8,284 +12.9%

〈ベルト売上高比率〉



億円

〈ベルト売上高推移〉



いずれの品目も増加

- ・自動車用 国内…微増 海外…東南アジア、欧米で売上回復
- ・一般産業用 国内…ユーザーの部品不足による生産調整で微減 海外…補修市場の拡販
- ・OA機器用 顧客の生産回復
- ・搬送ベルト、合成樹脂素材 国内市場で売上が増加

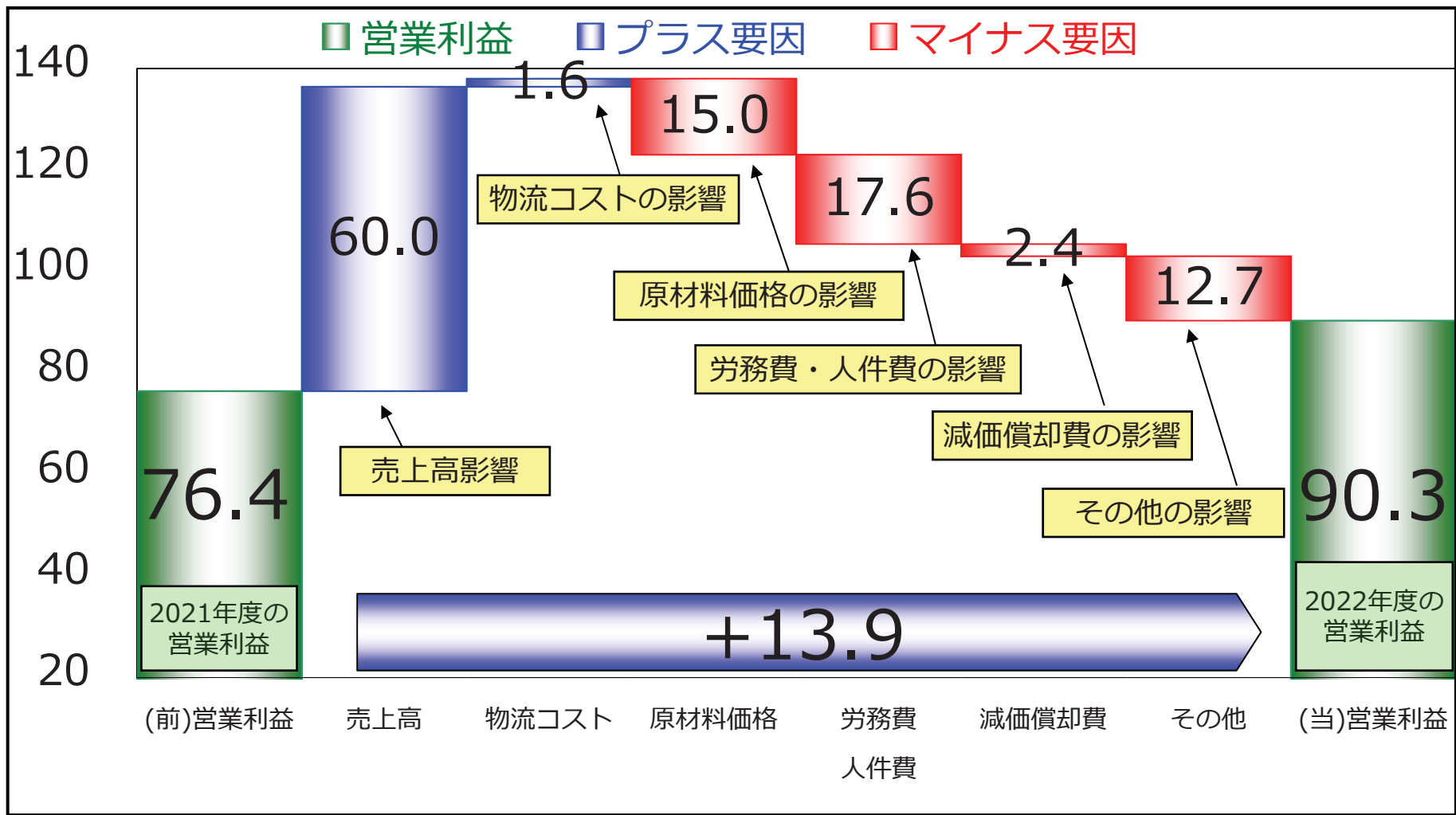
営業利益の変動要因

(単位：億円)



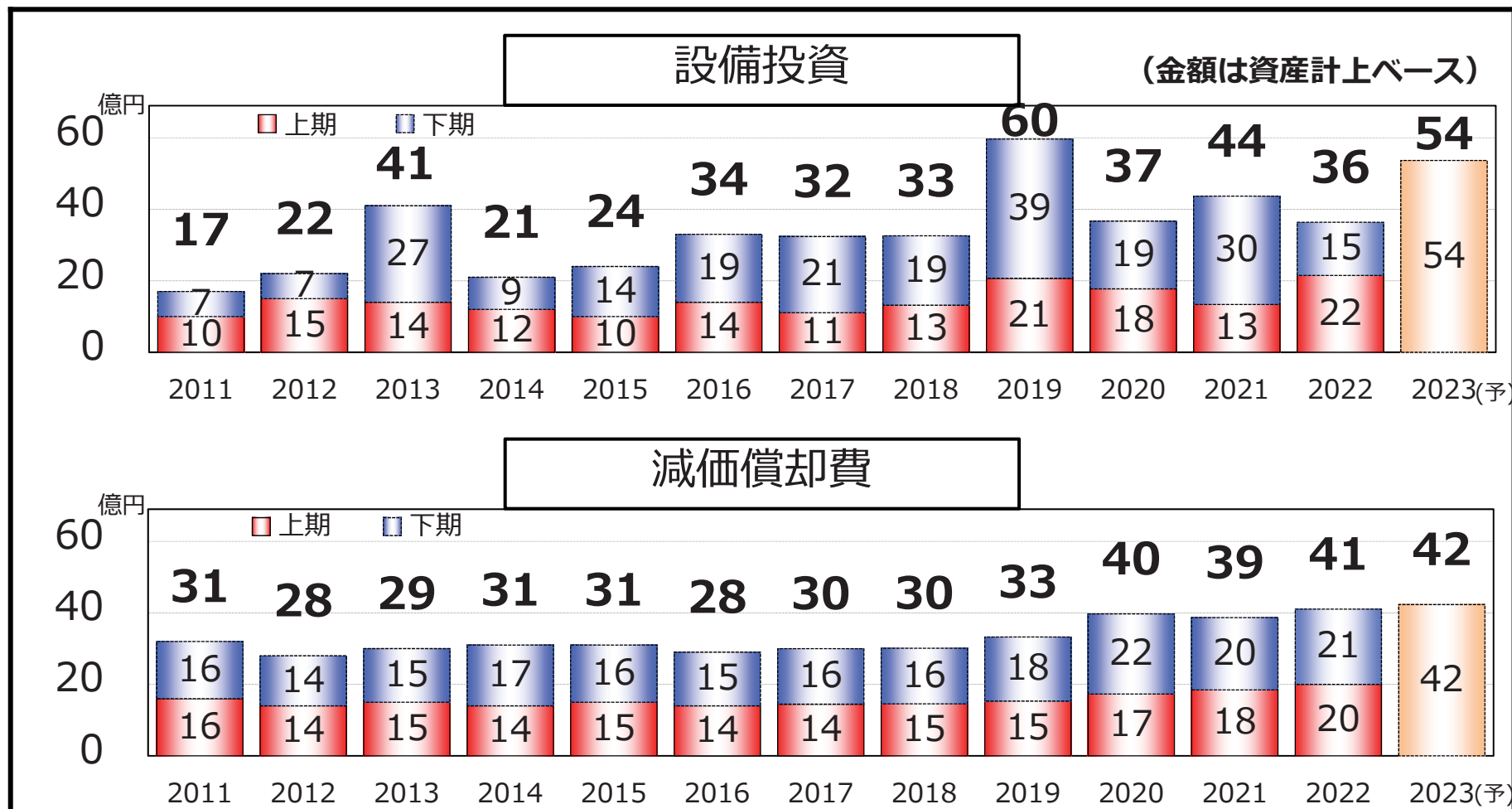
	2021実績	2022実績	差異
売上高	748.7	829.1	80.4
営業利益	76.4	90.3	13.9
経常利益	85.5	104.7	19.2

- 売上高増加に伴い、利益増加
- 原油価格上昇に伴い、原材料価格も上昇
- 生産などの事業活動の活発化や円安の影響により、労務費・人件費が増加



設備投資と減価償却費

(単位：億円)



国内外の製造設備の増設・移設、国内外の老朽化した設備の更新

- ・ 2022年度の計画承認額は、約72億円（2023年3月末時点）
- ・ 2023年4月にインド新工場が竣工、稼働開始



インド新工場

次期業績予想

(単位：百万円)



	2022 実績	2023開示				前期比	
		'21中期 経営計画	開示値			金額	%
			上期	下期	通期		
売上高	82,911	80,000	42,500	42,000	84,500	+1,589	+1.9%
営業利益 率	9,030 10.9%	8,300 10.4%	4,300 10.1%	4,800 11.4%	9,100 10.8%	+70	+0.8%
経常利益 率	10,471 12.6%		4,400 10.4%	4,900 11.7%	9,300 11.0%	△1,171	△11.2%
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益 率	7,071 8.5%		3,200 7.5%	3,900 9.3%	7,100 8.4%	+29	+0.4%

為替レート：USD	135.47円	115円	130円	(期中平均レート)
為替レート：EUR	140.97円	125円	142円	

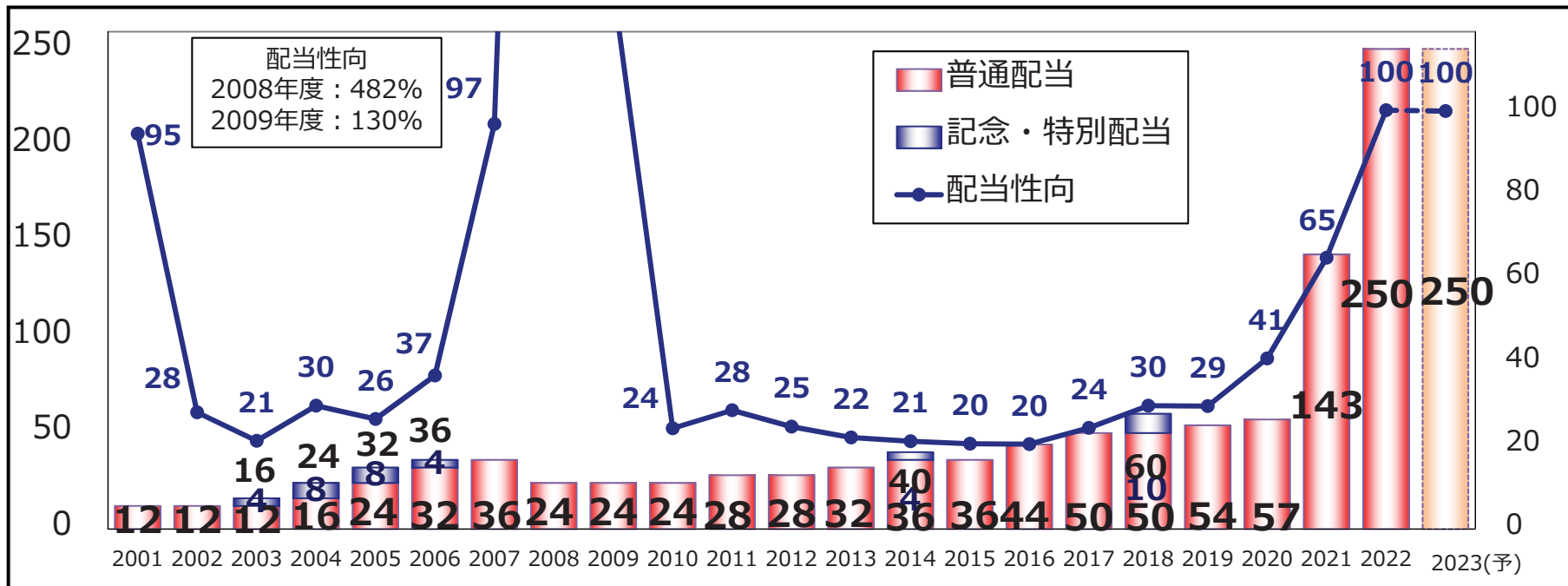
通期業績予想は開示値を上方修正

- ・ 為替が円安に推移しているため、業績予想の前提となる為替レートの見直しを行い、売上高及び各利益の予想を修正

配当金



	中間	期末	合計
2021年度	33円	110円	143円
2022年度(予定)	120円	120円→ 130円	240円→ 250円
2023年度(予想)	125円	125円	250円



2018年10月1日付の株式併合(2株→1株)に伴い、配当金は併合後の基準で換算しています。

直近予想に対し 期末10円 増配

- ・ 中期経営計画（見直し後）における目標値…連結配当性向100%（2022年度、2023年度）
- ・ 期末配当予想：120円 → 130円

ESGへの取り組み（1）



時期		カテゴリー	取り組み内容
2000年	11月	S	グループ社員で構成するボランティア団体「ふれあい協議会」を結成、住民と企業の共生によるまちづくりを推進
2003年	10月	G	執行役員制度の導入
2015年	5月	G	リスク管理委員会、コンプライアンス委員会を設置
2018年	10月	E S G	CSR推進委員会を設置 ※2021年3月にSDGs推進委員会に改称
2020年	6月	S	働き方改革推進委員会を設置
2020年	12月	E S G	SDGsの具体的な取り組みを策定
2021年	3月	G	人事・報酬諮問委員会を設置
		E	CO ₂ 排出量削減目標値を策定（2013年度比、2023年度：20%削減、2030年度：35%削減、2050年：CN）
2022年	4月	E S G	サステナビリティ推進委員会及びサステナビリティ推進室を設置 (サステナビリティ委員会 委員長は代表取締役社長、委員は経営会議メンバーで構成)
		E S G	サステナビリティ推進委員会のワーキンググループを組織
	5月	E	CO ₂ 排出量削減目標値を見直し（2023年度：20%→22%以上削減、2030年度：35%→46%削減）
	6月	G	初の女性取締役就任（社外取締役割合を1/3以上に） 取締役の任期を2年から1年に短縮
	7月	E	TCFD提言に基づく情報開示の実施（CDP2022）
	11月	E S G	マテリアリティの特定・開示
		S	人権デューデリジェンス活動に着手（人権方針、人権DD実施要領、人権DDガイドラインを制定）
		G	グループ行動基準を改定
12月	E S	各イニシアティブへの賛同を表明（①TCFD、②TCFDコンソーシアム、③人的資本コンソーシアム、④GXリーグ）	

ESGへの取り組み (2)



時期	カテゴリ	取り組み内容
2023年	1月	S 従業員エンゲージメント向上のための取り組みを強化（エンゲージメントの測定を開始）
	2月	S G 各種方針の策定・開示（①調達方針、②ディスクロージャーポリシー）
		E CO ₂ 排出量削減目標値について、中間年度の目標値を新たに策定（2025年度：27%削減（2013年度比））
	3月	S G 基本理念、経営基本方針などを、新たに理念体系として整理

2050年カーボンニュートラルに向けた中長期目標を策定

CO₂排出量の削減目標値(2013年度比)を以下の通り設定

- ・ 2023年度 22%以上
- ・ 2025年度 27%
- ・ 2030年度 46%



「報酬制度について」

- ・ 2021年に取締役（社外取締役を除く）及び執行役員に対して、譲渡制限付株式報酬制度を導入。
- ・ 2023年に取締役（社外取締役を除く）に対する業績連動報酬として、売上高・営業利益・ROEを業績項目とした制度を導入。
- ・ 2022年に従業員の株式購入を奨励する為、三ツ星ベルト社員持株会の奨励金を15%へ変更。

自己株式の取得と消却

(単位:千株)



取得・消却開始前 (1998年6月時点) 発行済株式総数 51,998 (100%)				
取得累計 25,799 (50%)		保有	処分	市場株式
消却累計 19,335 (37%)				
	2022年度		2023年3月末 発行済株式総数	
取得	450	0.8%	32,604 (63%)	

(単元未満株式の取得・消却を除く)
(2018年10月1日付けで、普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っており、当該株式併合後の基準で換算した数値を記載)

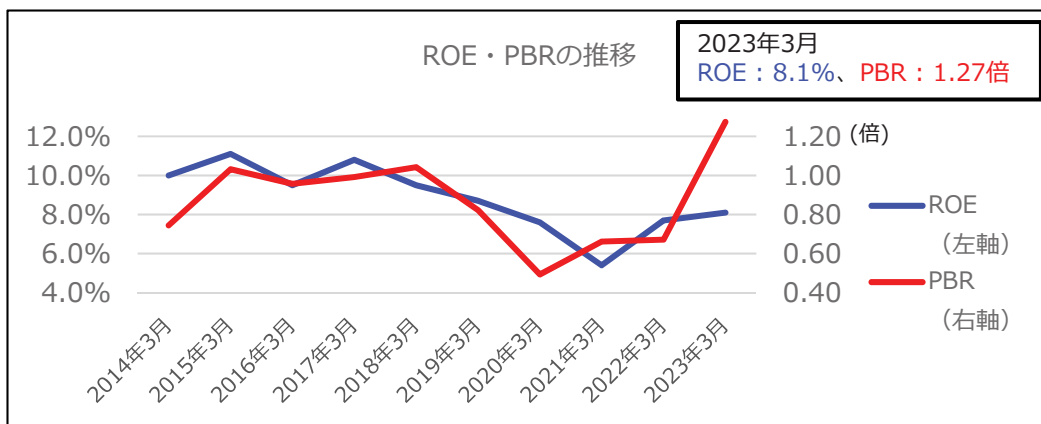
- ・ 自己株式の取得を継続的に実施。
- ・ 今後も、業績に基づき、当社株式の取引の状況及び株価や、中期経営計画における配当性向や総還元性向を踏まえながら、適切な時期において、適切な規模で継続的に実施予定。
- ・ 2024年3月期末までに、自己株式の保有比率が10%以下となるように消却予定。

ROE・PBRの推移



中期経営計画の見直し（2022年5月13日開示）において、2023年度までの期間を2030年度の「ありたい姿」の実現に向けた基盤強化期間と位置づけ、新たに「ROE」、「政策保有株式売却額」をKPIとして設定
また、その達成に向けて、「配当性向」の目標値を再設定（引き上げ）

	見直し前 2023年度 KPI目標	見直し後（2022/5/13見直し） 2023年度 KPI目標	2022年度実績
収益性	<ul style="list-style-type: none"> 売上高：750億円 営業利益：83億円 (11%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 売上高：800億円 営業利益：83億円 	<ul style="list-style-type: none"> 売上高：829億円 営業利益：90億円
資本効率性	—	<ul style="list-style-type: none"> ROE：8% 政策保有株式売却額：15億円以上 (中計期間中) 	<ul style="list-style-type: none"> ROE：8.1% 政策保有株式売却額：276百万円 (2021年度、2022年度)
株主還元	<ul style="list-style-type: none"> 1株当たり配当金：54円以上 (※連結配当性向：35%) 3年間平均連結総還元性向：50% 	<ul style="list-style-type: none"> 配当性向（2021年度）：65% 配当性向（2022年度）：100% 配当性向（2023年度）：100% 	<ul style="list-style-type: none"> 配当性向（2021年度）：65% 配当性向（2022年度）：100%



「財務体質の強化から、資本効率の向上への進化を意識した経営へ」

2030年度の「ありたい姿」として、ROE：10%の達成を目標とします。

PBR：1倍以上の維持、更なる向上を目指します。

'21中期経営計画の進捗 (1)

自動車部品分野

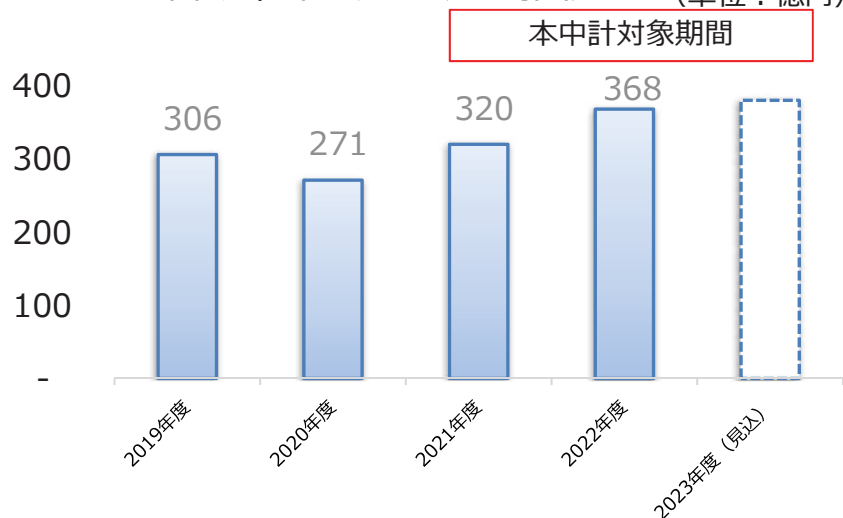
電動化 (EV化) への対応

- ・ハイブリット車向け補機駆動用高付加価値システム製品の拡販
→欧州市場を中心に需要増のマイルドハイブリッド車向けのベルトを開発。マイルドハイブリッド車へのベルトの採用が拡大中。
- ・四輪車両制御装置 (EPS、EPB、PSD) の電動化対応製品の拡販
→EPSでベルト駆動方式が増加傾向。タイミングベルト採用拡大の見通し。
- ・二輪車・多用途四輪・パーソナルモビリティ向け後輪駆動用製品の拡販
→電動化に伴い、後輪駆動用としてタイミングベルトが採用される車種が増加中。

補修市場への拡販

- ・新興国を中心とした四輪車・二輪車向け海外補修市場への拡販
→既存取引先への販売活動の強化、新規販売先の開拓を実施中。

自動車部品分野 売上推移 (単位: 億円)



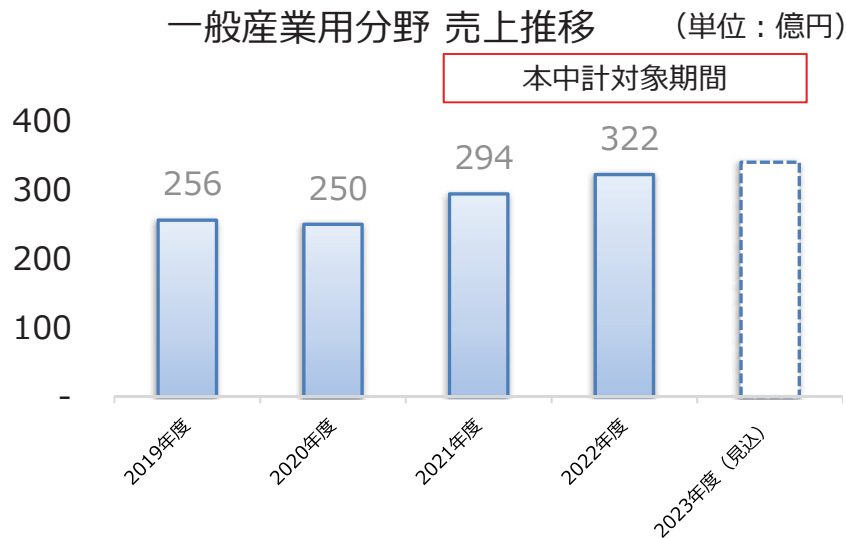
EPS用タイミングベルト



多用途四輪車

'21中期経営計画の進捗 (2)

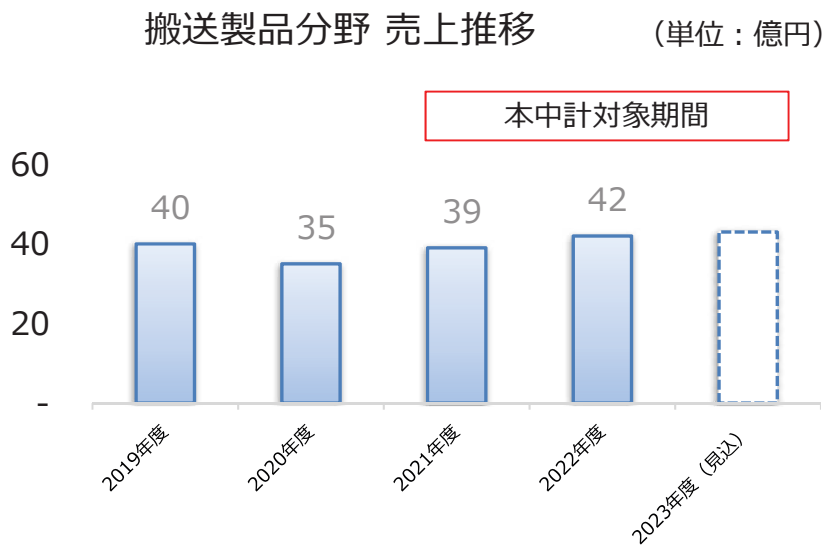
一般産業用分野	
食へのサポート	<ul style="list-style-type: none"> 農業機械向け高付加価値製品の開発及び拡販 →国内外コンバイン向けベルトを開発。 海外向け大型農用ベルトを開発、拡販中。
自動化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ロボット・物流機器向け製品の開発及び拡販 →ロボット向けの小ピッチ高トルク仕様の新製品を開発。
環境への対応	<ul style="list-style-type: none"> クリーンエネルギー市場向け（風力発電機など）製品の拡販 →洋上用風力発電向け製品の採用を目指し拡販中。 環境配慮型製品を開発。
省エネ化への対応	<ul style="list-style-type: none"> 高効率な製品の開発及び拡販 →高負荷に対応した高効率なベルトを開発。



'21中期経営計画の進捗 (3)



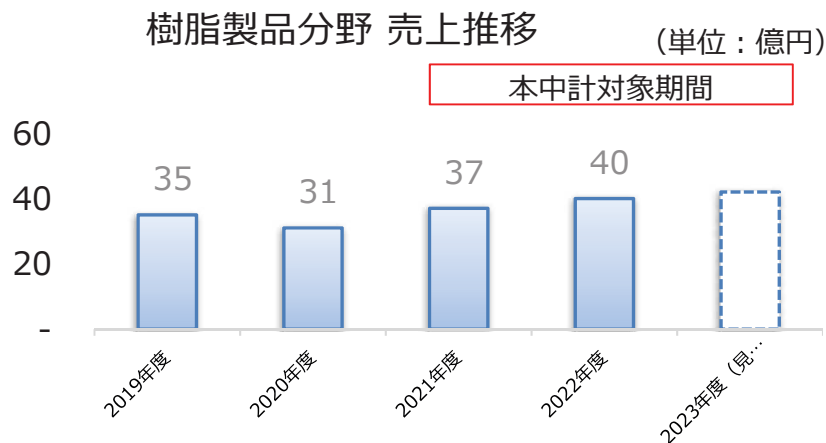
搬送製品分野	
食の安全への対応	<ul style="list-style-type: none"> 食品業界の衛生管理に対応する高機能ベルトの拡販 →樹脂ベルトの新製品を上市。採用件数伸長。
流通の効率化への対応	<ul style="list-style-type: none"> 物流業界向け高付加価値製品の拡販 →無心体ベルトを開発。
環境配慮型製品への対応	<ul style="list-style-type: none"> バイオマス由来・リサイクルなどの原材料を使った製品開発 →バイオマスポリウレタンを使用したベルトを開発。
海外市場への拡販	<ul style="list-style-type: none"> 東南アジア市場への拡販 →東南アジア市場への進出に向けて準備中。
情報通信技術を利用したソリューション事業の展開	<ul style="list-style-type: none"> 部品管理Webアプリケーションサービス「Tailor-note」の提供 →2022年6月にリリース開始。改良を加え、拡販中。



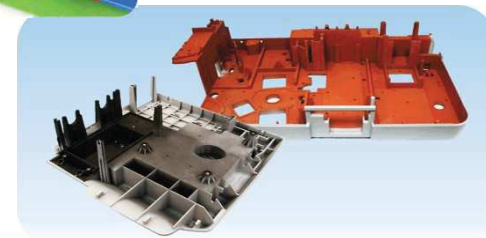
部品管理Webアプリケーションサービス「Tailor-note」

'21中期経営計画の進捗 (4)

樹脂製品分野	
軽量化、省エネ化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・金属の代替品として多様な分野への用途開発と拡販 →重点業界を設定し、用途開発やスペックイン活動を展開。
メンテナンス軽減化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・高機能樹脂の用途開発と拡販 →既存の顧客に加え、重点業界を設定し、高機能樹脂の用途開発やスペックイン活動を展開。
機能部品化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・発泡成形を用いたフレームレス構造やベース部品の拡販 →医療機器向けS F製品を拡販中。
環境への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオベースやリサイクルを考慮した製品開発 →製品開発中。
食の安全への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・食品業界の衛生管理に対応する高機能樹脂素材の拡販 →新食品衛生法に対応した樹脂素材のスペックイン活動を展開。



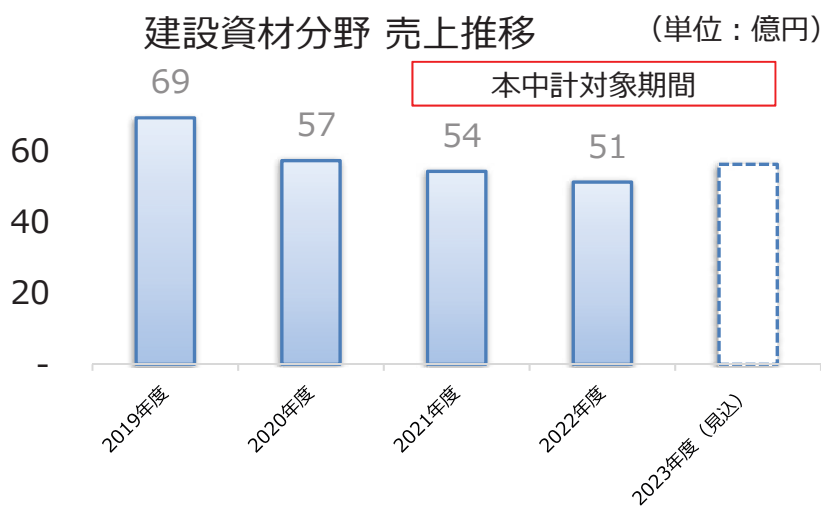
各種 高機能樹脂



発泡成形品

'21中期経営計画の進捗 (5)

建設資材分野	
水資源保全への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物及び汚染土処分場遮水工事市場への拡販 →競争力のある樹脂シートをメインに受注活動を継続。 ・ 農業用貯水池築造及び改修市場への拡販 →加硫ゴムシートの拡販活動を継続。 ・ 河川の防災・減災関連市場への拡販 →「ゴム堰」の袋体を販売開始。河川からの発電用・農業灌漑用取水等に使用。
自然環境保護への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビオトープ・緑化推進、生物多様性保護市場への拡販 →「学校ビオトープ」の普及活動に、遮水シートの提供を継続。
建物の長寿命化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物屋根・屋上防水市場への拡販 →高耐久・長寿命の防水工法を開発中。
新規市場への進出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未着手の事業分野に進出 →2023年2月、日本水研（株）より高速道路橋梁の防水工事、浄化センター・浄水場配水池防水工事などに関する事業を譲受。インフラ市場への更なる拡販を見込む。



屋上防水 施工例



最終処分場遮水システム

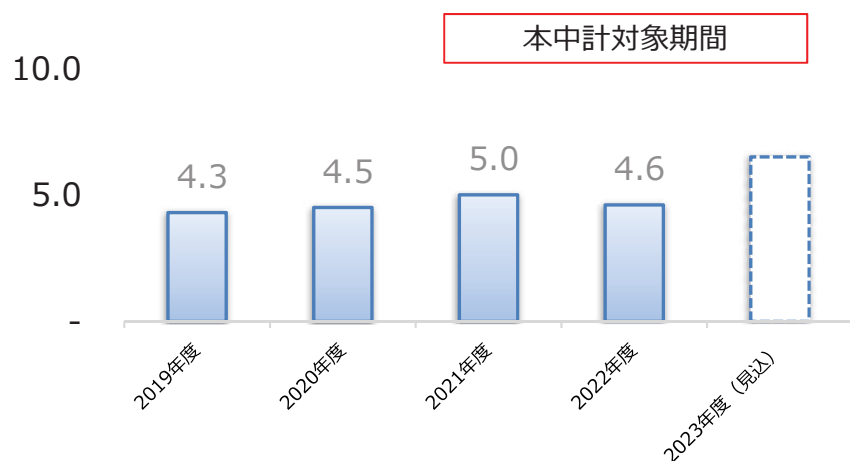
'21中期経営計画の進捗 (6)



開発製品分野・新規分野	
省エネ化、クリーンエネ化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・モビリティ、モバイル機器市場への金属ナノ粒子の拡販 →車載、スマートフォンなどに組み込まれる電子部品用途をターゲットに銀ナノ粒子の拡販活動を継続。 ・太陽光発電、電源・電源装置市場への高性能回路基板の販売 →銅系ペーストを使用した厚膜回路基板の拡販活動を継続。
情報化、電動化、自動化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・高速大容量通信、モビリティ市場への高性能回路基板の拡販 →通信基地局などで使用される回路基板をターゲットとして拡販中。 ・半導体、電子部品業界への導電、抵抗、絶縁ペーストの拡販 →半導体：車載用途で高信頼性・高放熱性を発揮出来る銀ナノ粒子や超厚膜印刷基板を開発中。 電子部品：チップ抵抗器用途で導電・抵抗・絶縁ペーストを新規受注。

開発製品分野・新規分野 売上推移

(単位：億円)



銀ナノ粒子塗料